

月刊

## 語学のスズメ新聞

7月号

Hello!! from the UK!!



Pubの前の看板

ロンドンブリッジ

みなさんお元気ですか？私 Chiko はついにイギリス生活に突入しました！書きたいことは山ほどあるのですが、やはり何と言っても一番大きなニュースはUKのEU離脱です。本当に歴史の1ページに居合わせた感覚ですが、こちらでは連日UKはどのような方向に進めばいいのかわかりませんが、ニュースでもその話題で持ちきりです。国民投票の少し前からどんどんイギリス国民の投票に対するアピールが大きくなってきていたのですが、こちらの人は自分がどちらに票を投じるのか、自分の家をデコレーションしたり車に国旗を付けたりして意思をしっかりとアピールします。Pubやカフェでも話題は国民投票（英語ではReferendumと言います）で持ちきり。日本人の私でさえシェアハウスで意見を求められます。私は今フラット（大きめのアパートのような小さい家のような）に4人でシェアして住んでいます。国はスペイン、ドイツ、ブルガリア、そして私、日本。みんなEU諸国の人達。連日みんな仕事から帰るとキッチンで熱く議論を交わしていました。

そこに私もポイっと入るわけなのですが、本当にイギリスの政治を少し勉強しておいて（まあただ興味があったからなのですが）よかったとつくづく思いました。「What do you think about this referendum Chiko?」と言われたとき一瞬ヒヤッとしましたが、もうここは自分の意見を述べてなんぼの世界。はっきり答えました。意見に合っているも間違っているもないわけで、みんなしっかり私の意見を受け止めてくれました。海外に来ていつも思うことは、自分の意見をしっかりと持つこと。意見交換をして、相手を知り、信頼関係が生まれるということ。それは同時に自分のアイデンティティーや考えに強い意志を持つこと。改めて考えさせられました。

さて、話は戻りますが、今回のReferendumの焦点は移民。イギリス（特にロンドン）は本当に様々な国の人が住んでいます。数年前に東ヨーロッパもEUとして認められ、たくさんの東ヨーロッパの人達が住むようになったわけなのですが（私のルームメイトもブルガリア人ですね）その人たちが原因でイギリスの人達に仕事がないということなのです。もちろんそれだけが焦点ではないのですが、要するに大きくざっくりということ、保守（イギリス国民だけでUKを再建したい）の人達はEUから離脱（こちらではLeaveと言います）支持。みんなでEUとしてやっていきたい人は残留（こちらではRemainと言います）を支持するわけです。もちろん国家レベルでは様々な問題が絡み合っているわけですが、個人レベルではやはりどこかで移民問題があるように感じました。

いったいどの層がLeave支持、Remain支持かということですが、これがまた複雑。ただニュースやこちらの人の話を聞くと、ロンドン市民のほとんどはやはりRemain、ただ田舎の方へ行けば行くほど保守の色が強く残ります。また、若者はやはりRemain支持。年齢層が上、特に大英帝国時代を誇りに思っている人達がLeave支持という感じです。また高所得者と低所得者の間でも支持が分かれます。今回の結果で若者達が、「なんで後が長い僕たちの意見が



若者が今回の投票結果への想い



中心地

通らないの？これから支えていくのは僕ら若者なのに！」とインタビューで叫ぶ姿がニュースで印象的でした。結果、みなさんをご存知のように結果は、Leaveになった訳ですが、この結果に私の周りには驚きと落胆を隠せない様子でした。もちろん私のシェアメイトは全員Remain支持（投票権はありませんが）何が落胆だったのかということ、個人レベルですが一人一人の意識の中で「そうか、イギリスは自分達だけでやっていきたいのね。移民は必要ないのね。」とってしまう点です。何だか、色んな人種がごちゃ混ぜで、ついこの前にはムスリム出身のロンドン市長が生まれたばかりの国際都市の代表的な街ロンドンがあるイギリスで、まさかこんなことが起こってしまい、確実に移民とBritishの間に精神的な溝ができてしまったのはみんなが共通で感じたこととなってしまいました。

今回こちらで歴史の1ページのような出来事に出くわし、感じたことは、人種や国籍の違い、またそこに宗教の違いなど色々絡み合っていくわけですが、「違う」という意識はとても奥が深いものなのだという。どんなに英語や語学が堪能でどんなにその地に長く住んでも差別されてしまうこともあり、「違う」ということを本当に深いところで理解していないと、このような問題が起きた時について「自分と違うものを排除する」という方向に走ってしまうということ。自分がマイノリティーになり改めて実感することですが、違うことを受け入れること、また受け入れてもらうことは、簡単ではないけれど、とてもとても深い意味で大切なのだと感じました。

皆さんは今回のUKの離脱どう感じられましたか？まだまだ今月号では伝えたいことがたくさんあるのですが、来月号に載せたいと思います。そして少し写真も載せさせていただきます！ああ〜今日も曇り！！でもなぜかビールは飲みたくなるんですね！今月もビール飲みながら全力でいこうぞ。さて、日本は初夏ですかね？イギリスも日本の夏に続いてくれー！と願っているChikoでした！では、また来月号で！

## 第5回(後編) 喜多川泰の親学塾 希望の種をまこう

2月21日、喜多川泰の第五回親学塾に行ってきました。この講座はもともと喜多川氏が代表を務める学習塾『聡明舎』(横浜市瀬谷区と大和市にある小中高生向けの学習塾)で掲げる「生きる力を育てる教育」を行うための保護者向けの講座でしたが、この講座の評判が高く学校の先生方や他の地域の保護者からも受講したいとの声を受け、2011年から一般向けに全国で開催されるようになった講座です。親学塾のコンセプトは「大人が楽しく学ぶ機会」。語学力UPにチャレンジする皆さんにもお役に立つと思いい講座内容の概略を小林がレポートして参ります。文中の「僕」は喜多川泰さん本人。斜体の文は小林のナレーションです。第5回目の親学塾は「希望の種をまこう」というテーマについての話でした。前中後篇の3回に分けてご案内いたします。今回は後編、最終回となります。

**未来の空白を埋める②** 未来という空白を不安で埋めるか希望で埋めるかっていうことを、実は僕は毎日やっています。ちっちゃな例で言いますと、あそこのお客さんにこれやってあげたらこのお客さんにもこれやんなきゃいけないよね、みたいな感じになっていくわけですよ。でも今みたいなちっちゃなことを、僕は実は毎日考えているんじゃないでしょうか。本当に毎日考えていると思います。「隣の家から柿を1個もらった…。どうしよう?」というところからはじまってですね、「近所付き合いでこうだったらどうしよう…」ということも含めてですね、そういうことをちょっとずつちょっとずつ考えて、僕らの毎日というのは出来上がるんです。もしですよ、今言ったように自分のほんのちょっとした将来から大きな将来まで、不安で埋めることで行動しないを選択して行って、5年経ち10年経ち20年経ち30年経ちっていうふうになって行った先の自分の人生は、果たしてそれでいいか?と考える必要はあると思うんですよ。講演会なんかでもですね、未来のことにに対して希望で埋めて、その希望に向かって突き進むという生き方を聞いて、スゲ〜って思うわけですよ。自分もそうありたいと思うんです。なんかこう盛り上がり、家にウェアンって勇んで帰るじゃないですか。俺はやるって決めたんだ、みたいな感じですよ。ね。「おいお前、ちょっと俺の話を聞け!」みたいなね、奥さんに言ってみるわけですよ。そうすると奥さんが、「はっ? あなたそんなばかなこと言っ

ないで!」みたいなことを言われ、自分の現実と照らし合わせていくと、段々だんだん不安がやってくるわけですね。そこで「ん〜、そうだね」っていうふうになって、結局ひと段落するということが結構多いんじゃないかと思うんですけど、僕はですね、みなさんどう思ってるかわからないんですけど、一般的な人代表のつもりで話しをしていますから、さっき言った心のやり取り、こういうのがある人なんです。ないんじゃないんです。ある人なんです。ある人なので、常にやるかやらないかっていうことに関しても、希望だったり不安だったりってというのが未来の空白の中に行ったり来たりしてくるわけですよ。講演会のお話を聞いていると、希望で埋めたら行動できるっていうふうに判断しがちなんですけども、でも場合によってはですよ、「それって勇気じゃないんじゃない?」って僕は思うこともあるんです。勇気って何かって考えた時に、未来という空白は希望でも埋まった、でも後から不安がやってきた。不安がいっぱいやってくるんだけれども、でも、やるか決める。これが多分、勇気だと思うんですよ。だけど未来という空白を希望で埋めました。「希望だけで埋まっています!」「行きます!!」みたいな人だと、ちょっと待ちなさいって、こういう単なる無鉄砲の可能性もあります。誰も求めていない可能性もあります。そして、誰からも必要と

なるかって言ったら、お化けが嫌だから、希望が叶わなくてもいいって判断を僕はしているんですよ。で、そこで、お化けを生み出さない努力をします。その一つの方法がテレビを見るということです。例えば携帯をいじって誰かと繋がっているってことです。ゲームをするということです。人によってはですね、お酒の力を借りるということです。そして、これをずっとやると、想像力を働かせる時間がないので、お化けはやって来ないです。代わりに言っちゃなんですよ。でも、希望も自分で生み出す力をなくしてしまします。この不安も希望も両方やってくるってのはですね、僕は精神的にはすごく健康な状態だと

思っているんです。不安がやって来ないというのも、逆に不安しかなくっていいというのも健康状態的には心が健康とは言いたくないような気がします。だから両方やってきてしまうってのは、僕はすごく大事なことだと思うんですよ。大事なことなんだけど、お化けはやっぱりどうしても誰から見ても怖いものなので、それを避けるためにみんな想像力を使わないような生き方をみんな選択しているような気がしてならないんです。僕たちがもしそういう生き方をず〜としていくと、例えばそれがテレビであればですね、子供たちもやっぱり同じ生き方になってしまうんじゃないかな?っていうふうに思います。つまり僕はですね、ちゃんと自分の将来を想像する時間を持つ生き方をすべきだと思います。ただその想像する時間を持って生きていくと、必ずその不安といいますが、こういうものはやってくるわけですから、その不安を替える(変える)方法を僕らが持つておく必要があると思います。で、どうやってそれを替えるかですよ。まあこれはもうみなさん恐らく、今日の話からも今までの僕の話からも答えは決まっているんじゃないかと思えますけれども、やっぱり本を読むということじゃないかと思えます。で、これを良き習慣にすることだと思います。例えば**自分を変える勇気**って話を今日最初にしました。目の前の人を変えようとするのではなくて、自分を変えることで周りが変わっていくんだ、自分を取り巻く社会・世界が変わっていくんだということ。それから**魂の震える出会い**をしましよって言いました。魂が震えるような出会いをすれば、僕らは心に火をつけることができるんですよ。心に火がついたらどうなるかということ、行動したくなるんですって言いました。で**未来ってのは希望で埋められる**んですって言いました。でも不安もやってきます。でもその不安をなんとかする方法が必要でって言いました。今日話したすべてのことは、実は読書という良き習慣で手に入れることができるって僕は思っています。これは習慣じゃなければダメだと思うんですけども、本を読むという習慣です。その本を読む習慣さへ僕らが身につけられれば、自分の想像力を発揮して未来ってものを希望で埋めていけました。こんな未来があるぞ、自分はこんなことができるんじゃないかっていうふうに、息もどンドン上がってきます。ところが途中でふと我に返って不安に襲われた時に、自分でその不安を希望に振り替える方法を持つていけばいいんですよ。それが僕は本を読むことだと思います。みなさんのその不安を希望に振り替えてくれる本は、世の中にたくさんあります。だから僕の本を読んでくださいじゃないんですよ。ものすごくたくさんあるので、ものすごくたくさん本と出会って欲しいんです。それらと出会うことで、僕は実はお化けを作り出して怖がらない人間で居られるというふうに思います。やっぱりですね、作り出さないことではないと思うんですよ。もし頭の中で未来について怖いことが出てきてしまったとしても、そこでそれを希望に振り返るだけの勇気を与えてくれる何かを僕は持つ必要があると思います。もちろんそれは読書だけではないと思います。それぞ



実は当校で一番人気の本は、英語版、DORAEMON!! 場面に応じた生きた英語。ロビールでいつでもお読み頂けます

藤子・F・不二雄

れが持っている方法ってあると思うんですね。ただその中に読書というのもあるかなと思います。だから僕らが本を読んでですね、自分の未来を希望で埋めていく、そして行動力を持って未来を創っていく。そんな生き方を僕らがずっとしていれば、僕らの子供達、もしくは僕らを見る人たちが、「なんであなたはそんなに強く生きられるんですか？なんであなたは未来に希望を抱きながら、自分の夢をどんどんどんどん実現していけるんですか？」って言うことが不思議に思える日がやってくると思います。そして自分ができないっていうことに対して、「なんでだろう？」って苦しくなる日がやってくるような気がします。そのときに思い出す姿が、きっとみなさんの持っている良き習慣だと思います。「そうか、良き習慣が良き未来を約束してくれるんだな」ということに僕らの周りにいる人たちが気づいたときに、その習慣ってなんですかって思い出そうとした時に、例えば子供たちの頭の中に、僕らが日々本を読む習慣だったり、日々想像力を働かしている未来を想像しようとする姿だったり、こういうものが浮かべば、子供たちも自然と自分が必要になった時にそれを求めに行くんじゃないかなって思うんです。ということで、今日のお話を参考にさせていただいて、自分の中で本当の勇気って何かって言った時に、やっぱり希望と不安と両方やってきた時に、それでも自分はやるんだって思えることだと思うんですね。え～、そういう勇気を僕らが育てていければなあというふうに思います。

**一隅を照らす** 5回を通じてずーっと話しをしてきたこと、それは自分自身が輝いて生きるということです。よそに求めるのではなくて、自分がどう変わるのか、自分自身がどういういい人生を送ろうとするのかということ、を永遠話しをしてきました。つまりですね、そうやって生きてる人が近くにいるだけで、その周りが自然と明るくなる、そんな人になりませんか？っていうことなんです。今もう既にそうだとみなさん思います。そういう人たちがここに集まってきていると思いますね。でもそういう人たちにはもう1つ使命があると思います。それは何かって言うと、それを伝えていくということです。もっと明るく生きていくということです。だからそのためにはですね、僕らはより強くならなきゃいけないだろうなと思います。自分自身が輝いていくっていうのも、実は強くなる必要があると思います。で、そういう生き方ができるとですね、それぞれがそれぞれの居場所でいろんな人に影響を与えて、自分の周りに写る鏡、つまり周りの人たちの反応がどんどんどんどん変わっていくんじゃないのかな、そういう信念を持って僕は生きています。もちろんそれはすぐに出てくる結果ではないかもしれない。もしかしたらね、いや10年20年30年かかるかもしれないわけです。わかんないです。わかんないですけど、でも、今起きてる苦しみのっていうのはいつかは変わるものです。いつかはそれを忘れるくらい別の人生が目の前にやってきました。だからこそ今すぐを期待しないで、長い時間をかけて自分は幸せになっていくんだっていう前提で、みなさんもね、目の前のことに対して一生懸命になりながら、それでもやっぱり一隅

を照らして生きるんだと、自分の周りを明るくして生きるんだという選択をしてくれればいいなというふうに思います。で、そんな生き方をしていくとですね、夢から選ばれる人になるんだらうなというのが僕の考え方です。

**夢が叶える** よく「夢が叶える」という言葉を使って話をします。僕は「夢を叶える」というふうに思いますが、世の中で叶えられた夢をみるとですね、どうやら夢の方が叶える人を選んでるような気がします。つまり僕は、夢から選ばれるような生き方をしていると、自然と「いろんなことを叶えなさい」ということで、アイディアが降ってくるんだというふうに思っています。その辺にあるものをですね、これを夢にする、あれを夢にするという生き方でなくってですね、自分自身が良き習慣を身につけて一隅を照らすと、自分の周りにいる人を明るくするんだと、そういう生き方を自分が選択しているとですね、自然と「あなたはこんな夢が実現できるんじゃないの？」っていうことで、夢の側から話かけてくれるんじゃないのかなと思います。それは僕らがその声を研ぎ澄ましていけば聞こえる声だと思うんですね。ただその声っていうのは、きつとですよ、先ほど言ったように想像力を自分が持っている時にしか聞こえない声だと思います。ですからその想像力を消すためにですね、ずっとテレビを見ている時に夢の側から語りかけてくれるとか、ずっとゲームをしている時に語りかけてくれるということではないと思うんですね。ですから自分にできることっていうものを一生懸命続けてですね、「夢が叶える」人になっていければお互いが幸せなんじゃないかなというふうに思っています。ということで、まあ今日の話もですねみなさんのどこかでお役に立てれば、どこかでこう偶然ではなく必然になるんじゃないかと思えますから、ぜひですね今日の内容を覚えていただいて、次回お互いが会う時までにお互いまたちょっとずつ成長した姿になれるかなというふうに思っています。

今日で、これにて、全5回が終了ということになります。え～、終了なんですけれども終わりは始まりという話を最初にしました。つまり今日からですね、何か新しいことが始まる。この東京の親学塾をきっかけにですね、みなさんの人生が新しくなりましたというふうに言えるような、そんな成長を今後も続けていきたいと思えます。お互いですね、より良き未来を想像して、一緒にお化けを倒していければというふうに思います。少しずつ少しずつ、お互いが強くなっていければなというふうに思います。ありがとうございます。

まとめ:小林義和

## 英語での日時の書き方

冒頭のChikoのイギリス頼りにもありますが、イギリスがEU離脱となり、世界中で、これからのイギリス、ヨーロッパ、そして世界経済はどうなるのだろうか？という感じですよ。唯一良いのは、円が高くなったので、海外旅行をしたい方には良い機会かもしれません。そこで今回は旅行に行った時のお金の調達についてお話ししたいと思います。

ひと昔前は、現金を持って行くのが危ないのでトラベラーズチェックという物が定番でしたが、最近クレジットカード、そして海外でもお金を現地の通貨で下ろせるデビットカードに変わってきました。

まずクレジットカードの裏をチェックすると、CIRRUS(シーラス)PLUS(プラス)などのマークが付いていますので、同じマークが付いているATMなら大丈夫です。カードの入れ方は様々ですので、磁気を向ける方向を確認して入れます。画面をタッチすると、Language(言語)が出ます。英語、中国語、スペイン語、フランス語等の言語等の選択が出ます。個人的にはあまり日本語を見た事はありません。ここでは英語でのお話にします。

**Enter PIN (Personal Identification Number)**暗証番号を入れてくださいと出ます。入れた後にはEnter(入力)を押します。そして次に出るのが、なんの取引をしたいかです。引き出したら**Withdrawal**です。次は口座の種類を選択です。**Checking**(日本で個人ではないと思いますが小切手預金口座)**Saving**(普通預金口座—その外国の銀行に口座がある方は少ないと思いますのでこちらではなく)**Credit**←こちらをタッチします。そして、金額です。もし、画面に希望の金額がなかったら**Other**”を押す、金額を入力します。この時**Select Dispense Amount**とか出ますが、ここでは引き出したい金額を選んでください、と言う事です。現金をゲットした後、**Would you like another transaction?**(他の取引をされますか?)とか出ますので、必要なければNoをタッチ。カードと明細書を取り忘れないようにしましょう。(後、現金も！笑)

以前私はBudapestに早朝列車で着いた時に、全く現金がなく、すぐさまATMへと向かったんですが、いつも使ってるカードでいくら暗証番号を入れてもお金が出てこなかったんです。日本円もないし、どの通貨でもなんにも現金がなかったの、焦りまりましたが、もう1枚クレジットカードを持って来る事を思い出し、某〇浜銀行さんのクレジットカードでトライしたら、見事に当たりました！もうひとつのカードは海外での現金引き出し利用限度額を超えてたんですね～(笑)その後の私の教訓は、、、クレジットカードは2枚以上持って行く。前もって利用限度額(海外での現金引き出しの額が少ない場合があります。)を調べておく。万が一盗まれても焦らないように、カードを裏表コピーし、カードとは別のバッグに入れて置き、盗難等の時にその現地で電話できる電話番号を控えておく。そして最後に、あまり人がいない所にあるATMやパーに設置されてるATM(手数料が高い場合があります。)は避け、銀行や、駅、空港等にあるものを使い、沢山現金を下ろした後、見えるような所で現金を確認せず、誰かつけて来ないかちょっとチェックしながら、足早に次の場所に移動しましょう！(笑)それでは皆さん、夏に向け**Have a safe trip!**